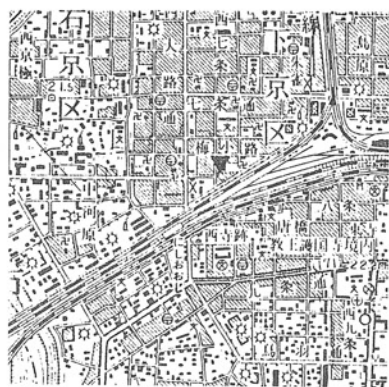


京都・平安京右京八条二坊五町

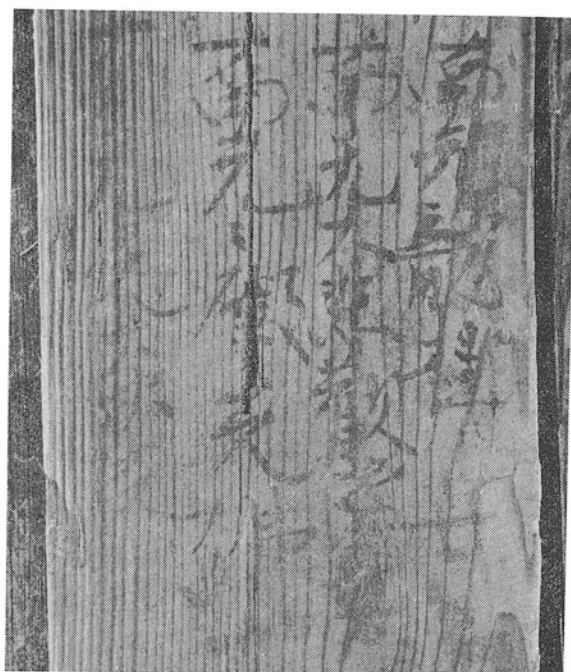
- 1 所在地 京都市下京区梅小路西中町
- 2 調査期間 一九八二年(昭57)一〇月～二月
- 3 発掘機関 財京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 吉村正親
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 平安時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部)

本調査は上水道配水管敷設に伴う立会調査である。調査位置は平安京復原条坊図では、八条坊門小路・梅小路・西靱負小路などの部分にあたる。西靱負小路想定線上で八条通から五〇m北へ上った地点で、木棺墓を検出した。木棺墓は地表

下七〇～一二〇cmの深さにあり、南北方向に据えられていた。掘削時には半分程度しか検出できず、旧管撤去後に残り半分を取り出し



(1) 部分

た。周囲の土壌は灰色の泥土であり、木製品の保存には最適であった。棺の下には三列の一〇～二〇cmの角材を並べ、小口部は板の上を薄い曲げ板でおおっていた。全体は上方からの土圧によって押しつぶされ、二枚の板が重なっていた。内部には板に付着した骨片があり、板には梵字及び仏名が書かれていた。

8 木簡の积文・内容

上半分は腐蝕が進行して判読できない所が多い。梵字1はウン、2は千手千眼観世音菩薩广大円満無礙大悲陀羅尼の一節か、3は勢

至菩薩の種子か、4は十一面観音小呪、5はオン、6は阿弥陀如来の種子、7は八字文殊真言、8は観音菩薩の種子、10は大随求陀羅尼、11は滅罪真言である。その他に十一面根本真言の梵字を書いた断片がある。これらの内容からすると天台宗と関係があると思われる。下段の南无无量光仏以下は十二光仏であり、欠失している二仏

(1) 「

唵□□□□唵□縛底

(梵字1)

南无胎藏界

(梵字2)

□□□□□□□□□□

縛達磨(梵字3)

(梵字4)

南无金剛界

(梵字5)

(梵字6)

(梵字7)

(梵字8) 三昧耶薩怛𑖦𑖦

南無平等大会一乗妙法蓮華經一切衆生皆成

□光
□明真言

(梵字9) 若聞法者無一不成仏(梵字10)

仏道南无西方極樂浄土阿弥仏

□我等
与衆生皆共成仏道

妙法蓮華經(梵字11)

は無対光仏と歓喜光仏である。

釈読にあたっては木下密運氏のご協力をえました。

9 関係文献

勅京都市埋蔵文化財研究所『昭和五七年度京都市埋蔵文化財調査

概要』(一九八四年)

南无不動明王

南无尺迦牟尼仏

南无弥勒菩薩

南无文殊師利菩薩

南无虚空藏菩薩

南无地藏菩薩

南无大勢至菩薩

南无大悲観世音菩薩

南无无量光仏

南无毘盧光仏

南无清浄×

南无炎光仏

南无智恵光仏

南无不思光仏

南无辺光仏

南无難

南无称光仏

南无超日光仏

南无阿弥陀仏十遍

南无超

1712×530×14 061

(吉村正親)